

# “里海×里山資本主義” とは何か<sup>1</sup>

「マネー資本主義」の欠陥<sup>2</sup>を補うサブシステム (保険)

“善意と資源とお金の循環” で、安心・安全を増やす

**！ 里海・里山に眠る、金銭換算すると無価値の資源**

①耕作放棄地、②木、③半端毛/農産品、④海草や雑魚、⑤退職者...

**！ でもこれを資本として活かすと、水と食料と燃料が一定程度自給できる** (←農林漁業地域では常識ですが...)

①生活費を減らせる、②エネルギー自給率が高まる、③捨てていたものが、場合によっては高額で売れる / あるいは物々交換できる

**！ さらには成熟社会の安心・安全を増す効果も！**

④元気な高齢者が増える、⑤若夫婦の田舎移住が子供を増やす、⑥周囲と絆を持つ人間が増える、⑦マネー資本主義の機能不全に対して、バックアップを得ることができ、天災時等に効果を発揮する

# マネー資本主義と里山資本主義<sup>32</sup>

## マネー資本主義

## 里山資本主義

動機

ナンバーワンになりたい

オンリーワンになりたい

目標

お金儲けの一番を目指して  
際限なく稼ぎ、貯め込む

かけがえのない存在になる  
＝ 他者/過去/未来と共生する

戦略

粗暴バージョン：  
他者/他集団から奪い取る

素朴バージョン：  
何でも自給自足する

知能バージョン：  
未来/次世代から搾取する  
← 簿外資産を浪費して蓄財する  
(地下資源、水、土壌、大気、子供、絆...)  
← 借金や汚染物質を後世に残す

成熟バージョン：  
循環・再生が可能な範囲で  
ほどほどに稼ぎ、楽しむ  
← 使ったものは元に戻す  
← 1つ1つと清浄な環境を残す

手法

等価交換 / 金融投資  
自由競争 / リスクの個人化

物々交換・贈与 / 実物投資  
協働 / リスクの社会化

# 「里海・里山資本主義」で地域活性化<sup>63</sup>

## ① 安さでは勝負せず高品質の商品で外貨獲得:

当地独自の生活文化に支えられた、ハイセンス・少量・高単価の「地域ブランド商品」「生活文化観光」で外から稼ぐ(=「いま」「ここ」にしかないものを売る)。

## ② 稼いだお金をもっと地域内でぐるぐる回す:

地域内産の食材、建材、人材の質を上げて地元で使い倒し(外からの安物は使わない)、未就労女性や障がい者を雇用し、時短で「時給」を高め、兼業を奨励する。

## ③ 外から買うより地元産のエネルギーを活用:

地域内の建築物には地元産木材を使い、木屑の燃料利用を進める。小水力・風力・地熱を余さず使う。